

## 尼崎精工勤労働員生徒書簡類概要

- 1: 文書群番号 087016
- 2: 文書群名 尼崎精工勤労働員生徒書簡類
- 3: 出所
- 4: 家業・役職等 松山女子商業学校3年
- 5: 地名 尼崎市尾浜／尼崎市尾浜町
- 6: 行政区分 尼崎市
- 7: 歴史 戦時下の労働力不足に対処するため、昭和13年（1938）以降学徒の勤労働員が実施された。政府は動員政策を段階的に本格化させ、19年3月には中等学校以上生徒全員の工場への配置を決定するに至る。さらに翌年3月には（国民学校初等科を除く）一年間の授業停止が閣議決定された。松山女子商業学校3年に在学していた渡部氏は、昭和19年11月7日動員先である尼崎精工神崎工場へ着任し、以後病気のため翌年4月に帰郷するまでの間、尼崎に滞在、兵器生産に従事した。
- 8: 伝来 昭和62年（1987）12月、岩村登志夫氏（当時愛媛大学教授福本茂雄氏）の紹介により当館へ寄贈。昭和63年1月7日受入手続。平成14年（2002）6月に整理・目録作成を完了。
- 9: 史料入手先 渡部藤子氏（原蔵者）
- 10: 点数 62点（目録件数62件）
- 11: 年代 昭和19（1944）～1945年、及び1987～1988年
- 12: 構造と内容 本文書群は、勤労働員で尼崎に滞在していた渡部藤子氏が家族、友人・知人と交換した書簡から構成される。内訳は、家族との書簡35点、友人・知人との書簡22点である。この他、受入手続に係る書簡や関連物品も含まれている。  
書簡の内容は、家族との間では食料に関する事柄が大きな領域を占め、その他は渡部氏からは工場や寮（宛所は尼崎市尾浜名月坂 尼崎精工誠和寮）の様子を、両親からは松山での出来事や家族、親戚、知人の近況を知らせるものとなっている。特に工場についての報告は、動員されてきた大洲高等女学校や大阪市内の女学校生徒にも触れており、尼崎における学徒動員の実態を知る上で有益である。友人からの書簡は、女子商業学校と教師に関する事柄、勤労働員先や進学先での近況を知らせる内容となっている。  
なお本文書群の内30点は、『地域史研究』誌上で翻刻されている（後掲）。
- 13: 関連史料 松山高等女学校勤労働員関係史料
- 14: 閲覧条件 原本、一部翻刻史料あり
- 15: 作成者 島田克彦